

☆白百合列車の咲く頃に【裏設定】

○女性同士の性行為専用車両

略して女性専用車両。女性同士がまぐわいあうことが目的の専用車両。防音に優れており、車内の音は外部には聞こえない。特定のカップル同士でまぐわうものから乱交を主とするものまで様々な女性たちが集まる。基本的に一人で乗車すると乱交希望と見なされがちなので初めて乗る際は注意が必要。

その実体は人の欲望を叶える電車が生み出した特殊車両。本作においてはていあらと真琴、双方の願いが影響しあって生み出された。

ちなみに、男性が乗りたいと望んだ場合は男性を女性へつくりかえて乗車させることもできる。車両にいる女性のどれだけの割合が実は元男性なのか、誰も知らない。

○白崎ていあら

ギャルな女子校生。水商売をしている母親から「玉の輿に乗って母さんを楽させて」という意味をこめて「ていあら」と名付けられた。本人はその理由も名前の響きも気に入っておらず、学校では友人たちにあだ名で呼ばせている。名前でいじめられた過去があり、いじめられないよう、防衛策としてギャルになった。母親との関係も学校での周囲とのつきあいもあり上手く行っていないため、いつか自分を救い出してくれる王子様のような男性と出会いたいと願っている。

○有馬真琴

私立の女学校に通う女子校生。学校では委員長をしている。「委員長」と呼ばれることがもっばらで、クラスに本名を知っている人間がほとんどいないことをコンプレックスに感じている。遅刻を絶対しない、成績は上位でなくてはならない、など「委員長」という役割に支配されている自分がいやで、そこから逃げ出したいと常に願っている。